

法政大学

2020

法政大学大学院経営学研究科

法政ビジネススクール





よい循環づくりをめざす法政ビジネススクール

法政大学大学院経営学研究科長
新倉 貴士

実務の世界で感じている限界を、より普遍的な学問の世界を体験することによって突破したいと思っている方

企業現場で働く中で、ご自分の将来の成長を考えながら、もやもやした気持ちを抱いている方

ビジネスの世界をより広く、かつ、深く見る洞察力を鍛えたいと思っている方

理系の知識や経験はもっているが、経営学の知識の不足を強く感じている方

こうした方々の成長をアカデミックの領域で手伝うために、1992年4月にスタートしたのが法政ビジネススクール(HBS)です。日本の私立大学の中では最も設立が早かった社会人向け夜間大学院として、法政ビジネススクールは、教員、在學生、卒業生の間に良い循環を作り出すことを目指して四半世紀以上にわたり、努力してきました。

法政ビジネススクールでは、企業家養成、国際経営、人材・組織マネジメント、マーケティング、アカウンティング・ファイナンスの5コースからなるコース制を導入しており、それぞれのコースに特色のある授業を用意しています。もちろん、所属コースの科目に限らず、多様な専門科目の授業も吸収できます。さらに、経営学、会計学、経済学、統計学などの基礎科目も学べるように工夫されています。こうした知の旅を続ける中で、今までなかった知的体験をすることが多いと思います。

授業形式も多様です。理論と鋭い知見をもってビジネス世界の現実を分析する能力を徹底的に鍛える授業もあれば、教員と受講者、受講者間の白熱するディスカッションによって展開される授業もあります。学問の流れを理解し、現実の問題がその知的な流れのどこに位置するかを把握し、そこから、問題解決の方法を多面的に探る授業も用意されています。

もう一つ特色ある形式の授業が各コースごとに行われるワークショップ授業です。ワークショップでは、企業の第一線で活躍される多様なゲストスピーカーをお招きして、文字では表現できない現場の生の情報、最新の企業経営動向、最先端の事業動向をお聞きし、それを材料に活発な質疑応答を教員がナビゲートします。単なる講演会と異なり、現実と理論、実務と学問の往復運動を図る「集団インタビュー」といえます。この「集団インタビュー」を繰り返す中で、多様な職場に勤めている在學生

同士の多様な考え方を交わすことができ、視野が広がるとともに、一緒に学ぶ仲間としての連帯感も生まれています。

修士論文を執筆する機会も設けられています。修士1年の後半にはコースごとに希望する論文テーマに沿って論文の指導教員が決まり、修士2年の1年間、論文執筆に取り組みます。1年間の論文執筆のプロセスで、少人数教育の強みが最大限生かされています。指導教員は丁寧な指導を心がけており、教員と学生間に濃密なコミュニケーションが行われています。論文指導ゼミの中には多様な試みがみられ、修士論文と関連する専門領域の文献、あるいは古典を輪読する修士論文ゼミもあります。執筆の中間段階で、各コースの教員と在學生全員が参加する中間報告会が設けられ、個別の指導教員だけでなく、より多くの教員、学生からのアドバイスを得ることができます。最終的に提出された修士論文の中で、高く評価された論文は、「成果集」という製本冊子として公表されます。

多くの卒業生は、在学中の修士論文の準備・執筆のプロセスを振り返って、より鋭く現場をみる目がそこで鍛えられたといっています。実務だけでは得られない能力を得たともいっています。実務で育った人が学問的な成果に挑戦するという容易でない作業によって、思考力、構想力、調査能力、分析力など総合的な知的能力が間違いなく高まると思います。

社会人として仕事を続けながら、高度職業人に必要な能力と知見を身につけて法政ビジネススクールを卒業した方は1,000人近くになります。5つのコースごとの卒業生間のつながり、コース横断的なネットワークづくりも行われつつあります。

大学院を中心にして、在學生と卒業生間の循環も表れています。卒業生がワークショップゲストスピーカーとして登壇して、生の情報や経験談を後輩達と共有するケースがあり、また、卒業生の中に、教員になって在學生に知的な還元を行う例もあります。

私の例でいいますと、私の修士論文指導を受けて卒業した方と在學生と一緒に、マーケティングに関する研究を行っております。卒業しても、大変楽しく、在學生や教員と一緒に、知的刺激を共有して、一緒に賢くなっています。

法政ビジネススクールが目指す好循環の仲間に加わり、主役になり続けたい方の入学を強く期待しています。



金 容度 教授

企業家になるための洞察力と決断力を徹底的に鍛える

企業家養成コースが開講されたのは1992年であり、企業家の養成を目指すコースとしてはわが国初めてのものです。文字通り、企業家養成のイノベーターだと言えます。本コースでは、創業を志す人はもちろん、企業内で新たな取り組みに挑戦しようとする人、既存企業の事業承継を志す人、企業家の支援に携わる人など、幅広い「企業家」を想定し、その洞察力と決断力を徹底的に鍛えられるように、アカデミックの側からお手伝いをしています。

企業家が直面する状況は常に新しく、将来は常に不確実です。その中で決断を下すためには、表面的な現象ではなく、事柄の本質を理解しなければならず、そのための洞察力が欠かせません。企業家養成コースにおいては、こうした能力を養うためのカリキュラムを用意しています。まずは、企業家養成コース「ワークショップ」が挙げられます。このワークショップは、企業家本人に接して、本人の口から語られる経験を聴くと共に、対話を通じて、語られる言葉の行間を参加者が読み込む場です。毎回の授業時に第一線で活躍している企業家をお招きして、企業や事業を起こされた経緯や動機、そのときの苦労や問題点、現在直面している経営上の課題と対応などについての議論を深めます。単なる講演会やサクセスストーリーの紹介とは異なり、企業家の生のお話を聞きながら、参加者

が企業家の立場に自分の身を置いて企業家の本質を考える双方向授業です。1年に約10名の企業家の事例をディスカッションしますので、2年間の在学中に20名前後の企業家事例を「追体験」することができます。また、企業家活動、企業家史、経営戦略論、イノベーション・マネジメント概論、企業間関係論など、企業家に欠かせない科目も用意されています。さらには、1年間にわたって担当教員の集中的な指導を受けながら修士論文を作成することによって、思考力と構想力を高める機会も設けられています。

毎年、本コースには多様な経歴の社会人が集まってきましたが、一方で、全員が現場での強い問題意識を持っているという共通点もあります。そのため、教員を交えてアカデミックの世界との対話を常に行うだけでなく、在学生同士が多様なトピックについて多様な観点から議論し続けることが可能です。こうして育まれていく、授業を離れてもさまざまな交流を通じて繋がるネットワークは、卒業後も大切な財産となることでしょう。



●教員紹介および担当科目 (2019年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
稲垣 京輔 教授	企業家活動と組織変革に関する研究	2019年度は特定の科目を担当していません
金 容度 教授	企業システムの歴史の国際比較、企業間関係に関する研究	ワークショップ（企業家養成）、企業家養成演習
近能 善範 教授	企業間関係とイノベーション	イノベーション・マネジメント概論、企業家養成演習
二階堂行直 准教授	日本経営史・日本経済史	企業家史、企業家養成演習
福島 英史 教授	企業戦略と技術革新に関する研究	経営学基礎、企業家養成演習
吉田 健二 教授	経営戦略の策定と実行に関する研究	経営戦略論、企業家養成演習

●MBA修了生・現役生の声

「自分を磨き上げる、充実した2年間」

清末 大樹さん (2017年3月修了)
TOTO株式会社



入社以来、事業部門・販売部門それぞれ約10年ずつ所属した後、管理部門に異動となりました。そこで求められるスキルと視座が自分には欠けていることに気づき、それらを早いスピードで身に付けるべくHBSの門を叩きました。

HBSでの2年間で得たものは多くありますが、その中から3つを挙げると、1つ目はもちろんビジネススキルの習得です。MBAですから、戦略論や組織論はもちろん、それらを補完し関係する科目もみっちり学べます。10名程度の少人数でのディスカッションは、教授のファシリテーションもすばらしく、毎回盛り上がりました。

2つ目は、深く鋭く考察することです。ビジネスでは、与えられた時間はたいへん短く、その中で効率よく判断し伝えていくことが多いのですが、HBSでは授業の課題と発表、さらには修士論文の執筆に徹底的に時間をかけ、考えを深掘りしていきました。先行研究に習い、さまざまなケーススタディから学び、自ら

の考えを整理しては壊すことを幾度となく繰り返すことで、事例や事象を徹底的に考え抜いて、より多く、より深くの洞察を得ようとする癖がつかまりました。

3つ目は、成長を志す仲間達です。同級生・同窓生は全員何かしら課題を感じて入学してきています。年齢も仕事も立場も異なる方々と侃侃諤諤の議論をすることで、腹を割って話ができる多くの仲間ができました。また、この「仲間」には、ご指導いただいた教授の皆様も含めてよいと思います。HBSは、少人数制ならではの教授と学生の距離の近さがあり、そのため授業も修士論文指導も熱心かつ充実したものとなりました。

仕事・家庭そして大学院を鼎立させるのは時に大変なこともあります。しかしHBSでの2年間で、大変さを補って余りある充実した時間と多くの成果を手に入れることができ、達成感と感謝でいっぱいです。



洞口 治夫 教授

グローバル化が進むなかでの企業経営を考える

国際経営コースは、「多国籍企業の“戦略と組織”を研究するコース」という設置コンセプトをイメージして作りあげられました。コースの設置以来、幅広い分野で活躍する修了生を輩出してきましたが、そのなかで、当コースでの研究を土台として海外現地法人などに赴任し、グローバルに活躍する修了生が多数出てくるようになりました。修了した後もOB/OG組織「HIB Club」を通して情報交換がなされ、修了生同士の結びつきは広がりを見せています。

企業を取り巻く環境は、当コースが設置された当時とは大きく変化しています。そのうちの1つが、経済のグローバル化です。ヒト・モノ・カネそして情報が国境という壁を越えて自由に移動するようになりました。グローバル化の進展により、規模や業種にかかわらず、今や海外との結びつきに無縁でいられる企業はないと言ってもよいでしょう。この意味で、国際経営を学ぶ重要性はますます高まりつつあると言えます。個人のレベルでもグローバル化の影響を避けることはできないでしょう。人材の移動がより活発になり、様々な国の人たちと仕事をしていくことが普通になっていくかもしれません。企業経営に関する知識を身につけることはもちろんのこと、それをベースにグローバルに活躍するための能力を養っていく必要があるでしょう。当コースで学ぶ国際経営の理論と皆

さんの実務経験が融合されることで、グローバル・マネージャーとしての能力を養っていただけるのではないのでしょうか。

大学院教育は、それがアカデミック志向なものであれビジネス志向のものであれ、学部教育のような「教員＝教える人、学生＝教えられる人」といった一方通行の関係であってはならないと思います。ビジネススクールの教育のあり方は、当然これとは異なります。当コースで実践されている大学院教育を、「自動車の開発技術者とテストドライバーの関係性」に例えて理解すると分かりやすいでしょう。抽象的な理論に詳しい「開発技術者」つまり当コースという教授陣と、実際の現場で五感を研ぎ澄ませながら問題を解決していく「ドライバー」つまり社会人院生の双方向のコミュニケーションが、理論と実務経験の融合をより高次のものへと高めていくでしょう。



●教員紹介および担当科目 (2019年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
安藤 直紀 教授	海外子会社の経営戦略、新興経済での経営戦略	2019年度は特定の科目を担当していません
高橋 理香 教授	貿易政策の効果に関する理論および実証研究	国際経済学、国際経営演習
藤澤 利治 教授	EU 経済統合に関する研究、統一ドイツ経済の分析	国際経営演習
洞口 治夫 教授	日本企業の海外直接投資	国際経営論、国際経営演習
横内 正雄 教授	英国系海外銀行の発展に関する研究	2019年度は特定の科目を担当していません
李 瑞雪 教授	新興国市場における日本企業のロジスティクス戦略、新興国物流企業の経営戦略	ワークショップ (国際経営)、経営戦略特論、国際経営演習

●MBA修了生・現役生の声

マネジメント層を目指す若い方に“うってつけ”なビジネススクールです。

南 拓郎さん (2014年3月修了)
日本メトロニック株式会社勤務



大学卒業後、日系製薬会社の営業担当(MR)として社会人のキャリアをスタートさせました。その後、一般用医薬品・健康食品部門の海外事業担当へ異動になった際、業務に対し自身の能力不足を痛感し、基礎から実践に通用する知識と思考を学ぶべくHBSの門を叩きました。

HBSの講義は少数精鋭のため、ディスカッションが非常に活発になります。院生一人一人の役割が大きく、中身の濃い講義です。そのため、履修に必要な事前準備が求められ、日々学習することが求められます。その中で学んだ事を即座に実務に活かすことが出来るため、学習意欲や知識習得の効率が必然的に高くなります。日々の業務との両立は入学当初は大変ですが、限られた時間を効率良くマネジメントする能力が磨かれます。業務内容や業務時間を見直す良い機会にもなり、業務の取捨選択や同僚へ振り分ける術も身に付けることができます。

卒業後、キャリアアップのため外資系医療機器メーカーへ転職しました。HBS入

学当初はスキルアップのために通い始めましたが、様々な年齢・バックグラウンドの仲間とともに学ぶ事により、自身の社会人としてのキャリアについて考えるようになりました。また、MBAを取得することによって産業や職種を問わず、様々な雇用機会を得られることも転職した大きな理由です。

MBAを取得する意義は、将来起業する、または企業の中核を担う人材を目指し、ビジネスに必要な人脈獲得、また知識と思考等を鍛えるためだと考えています。HBSは院生も多く、多様な業種、バックグラウンドの方が学んでいるため多くの刺激を得ることが出来ます。また、講師陣から厳しくも温かい指導を受けられるため、これからマネジメント層を目指す若い世代にとって“うってつけ”のビジネススクールです。学費に掛かった費用は、修了後直ちに回収できるだけの機会を得られると思いますので、有益な自己投資としてHBSに通うことを是非お勧めします。



奥西 好夫 教授

人材と組織の課題を考え、実践する人のために

人材・組織マネジメントコースは、法政ビジネススクールが創設された1992年、「人的資源管理コース」としてスタートしました。その後「人材開発コース」、そして現在の「人材・組織マネジメントコース」と名称を変更しましたが、基本的な教育理念は一貫しています。すなわち、企業

等で現実が生じている人材・組織に関する問題を、アカデミックな理論、実証分析の方法を用いて調査・分析すること、それらを通して、課題の解決に資するような含意を得て、実践に生かす能力を身につけることです。

本コースの特徴の一つは、人事・労働、組織というかなり広範な分野の研究者を専任教員として多く配置していることです。研究テーマが幅広いというだけでなく、バックグラウンドとなる学問分野(経営学、社会学、経済学、心理学など)や実証分析の方法論(質的調査、量的調査など)も多様です。したがって、院生は人材と組織を考える上で必要なさまざまな理論的知識、思考方法を学び、それらを実践的な課題解決に生かす応用力を身につけることができます。

そのために、本コースが重視しているのは丁寧な修士論文指導で、それがもう一つの特徴と言えます。修士論文指導は、一人一人の学生に割り当てられる指導教員が主に行いますが、それだけでなく、研究テーマの構想、プロポーザルの発表、中間段階の報告など節目、節目で、コースの

全教員と全院生が参加して一日がかりの報告会を行っています。過去の優れた論文の中には学会賞を受賞したものもいくつかあり、また、『キャリア研究選書 シリーズ日本の人材形成1. プロフェッショナルの人材開発』、『同2. 女性の人材開発』、『同3. 雇用形態の多様化と人材開発』、『同5. 国際化と人材開発』(ナカニシヤ出版、2006~2007年)などとしても公刊されています。

私たちは、さまざまな職業経験を持ち、困難な課題にも直面してきたみなさんが、それを他人にも理解できるような表現で整理し、伝え、さらにそうした課題が生じる原因、由来を解明し、可能ならば解決策を提示することを、アカデミックな観点からお手伝いしたいと思っています。アカデミックな世界はビジネスの現場とは異なる流儀がいくつかあります。例えば、先行研究の探索や論理的な思考方法などです。最初は戸惑うかもしれませんが、これまでの多くの修了生たちの経験から、一度、アカデミックな流儀を経験することの意義はビジネスの実践の場でもきわめて大きいと、私たちは確信しています。



●教員紹介および担当科目 (2019年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
小川 憲彦 教授	組織社会化、組織文化、採用活動	経営組織特論、人材・組織マネジメント演習、経営学演習
奥西 好夫 教授	雇用・人事制度の統計分析、国際比較	人事制度論、人材・組織マネジメント演習
岸 真理子 教授	組織と情報、組織コミュニケーション	経営情報論、人材・組織マネジメント演習
佐野 哲 教授	労働力需給調整システム、社会政策	人材・組織マネジメント演習
佐野 嘉秀 教授	人材マネジメント、雇用システム	人的資源管理論、人材・組織マネジメント演習
長岡 健 教授	職場学習、組織エスノグラフィー	ワークショップ(人材・組織マネジメント)、人材・組織マネジメント演習
西川真規子 教授	ジェンダーと労働、仕事と生活	組織行動論、人材・組織マネジメント演習、経営学演習
永山 晋 准教授	組織の創造性、社会ネットワーク	人材・組織マネジメント演習

●MBA修了生・現役生の声

仕事人として、自分の糧になる経験

桜井 安名さん (2006年3月修了)
中野区役所



外資系IT企業の人事部門に勤務していた時、新たな人事制度を導入するため、人事や組織に関する専門知識を身に付け、経営の視点をより強化する必要があると感じ、大学院への進学を決めました。専門の人事分野では、アカデミックな視点がとても新鮮で、様々な理論や事例により理解が深まりました。専門以外の分野では、経営学を体系的に幅広く、効率良く吸収することができました。修士論文の執筆は苦労しましたが、「企業合併が従業員のモチベーションに与える影響」をテーマに書き上げ、幸い日本労務学会の研究奨励賞を受賞することができました。

その後、地方公務員に転職し、財政分析、人材育成、観光振興、シティプロモーションなどの職務を経験してきました。そこでは、自分の専門である人事以外にHBSで学んだ会計やマーケティングなどの基礎知識も役に立っています。人材育成の業務では、団塊の世代が退職し、組織全体の年齢構成が若返るな

かで、若手人材の育成が大きな課題でした。組織で人が意欲的に働き、育つ要素を考えた時、修士論文の内容と重なる部分が多くあり役立ちました。また、現在はシティプロモーションが主な業務ですが、マーケティングの基本を生かせる場面がいろいろあります。

仕事をしながら大学院に通うことは時間的にも大変でしたが、仕事が忙しくても学び通せたこと、先が見えず苦しい時期があっても粘り強く続け修士論文を書き上げることができた達成感、そして、先生や仲間との繋がりは、仕事人として自分の糧になる経験だったと、卒業して十数年経つ今でも強く感じています。育児をしながら昇任選考に挑戦するなどキャリアに悩むこともありましたが、HBSで学んだ経験が私の仕事人生を前に進めてくれています。



長谷川翔平 准教授

マーケティングを深く学びたい人のために

マーケティングコースでは、実務での豊かな経験を持ちながらも、研究者としても国内外で業績を積んでいる教授陣が、皆さんをお待ちしています。「マーケティング論」、「流通システム論」、「製品開発論」、「消費者行動論」、「サービス・マネジメント論」といった専門科目

目で理論を学習し、「マーケティング・リサーチ論」で調査・分析の方法論を身につけ、そして時流にあったテーマで開催される「ワークショップ」で、多数のゲストスピーカーと参加者同士の活発な討議を通して実践的に学び、マーケティングを体系的に深く理解することができます。

1年次には、こうして学んだ理論と実務での課題を照らし合わせ、研究課題を磨いていきます。このことが、今までにない面白い研究やビジネスのアイデアをもたらす可能性を高めます。少々難しそうに思われるかもしれませんが、「この理論は何か現実とは違うかも」、「この理論の考え方に当てはめると、現実の問題がクリアになりそう」といった直観的なひらめきで充分です。1年次の終わりには、研究計画の報告を行い、研究テーマに近い専門分野のマーケティングコースの教員が、ゼミ指導教員となります。

とはいえ、「マーケティングの知識もないのに、そんなに上手く研究できるのだろうか」と不安に思うかもしれませんが、心配ありません。皆さん

自身の努力も必要ですが、講義での数多くの仲間との議論や学習によって、楽しみながら理論や方法論を身につけていくことができます。さらには、2年次の先輩や卒業生も多くのアドバイスをしてくれます。これらの体制が円滑に進むように、1年次のオリエンテーション後に、先輩や卒業生が歓迎会をすることが恒例となっています。同期や先輩との関係は、マーケティングの深い理解をもたらすだけでなく、かけがえのない友人づくりにもつながります。

2年次には、演習(ゼミ)において、教員による丹念な論文指導のもと修士論文を作成していきます。6月と11月に開催される2回の中間報告会では、その途中経過をコースの全教員に報告し、専門的なアドバイスを受けます。このように、担当教員だけが指導するのではなく、コース全体が協力して、皆さんの修士論文の完成度を高めていきます。

皆さんの新しい研究課題に出合えることは、我々教員にとってもとても楽しみです。皆さんと一緒に、マーケティングの新しい研究ができることを期待しています。



●教員紹介および担当科目(2019年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
木村 純子 教授	農産物マーケティング、地理的表示保護制度、地域活性化	マーケティング演習
小林 健一 教授	広告論、コーポレートコミュニケーション論、CRM	ワークショップ(マーケティング)
竹内 淑恵 教授	広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、消費者行動	2019年度は特定の科目を担当していません
田路 則子 教授	製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略	2019年度は特定の科目を担当していません
新倉 貴士 教授	消費者行動、ブランド・マネジメント	消費者行動論、経営学演習、マーケティング演習
西川 英彦 教授	デジタル・マーケティング、ユーザー・イノベーション	マーケティング・リサーチ論、マーケティング演習、経営学演習
横山 斉理 教授	日本型流通システム、商業まちづくり	マーケティング演習、経営学演習
長谷川翔平 准教授	購買履歴データの統計分析、マーケティング・サイエンス	マーケティング演習、経営学演習

●MBA修了生・現役生の声

自己の幅を広げた、HBSでの経験

大伴 崇博さん(2018年3月修了)
株式会社良品計画勤務



私が法政大学大学院の道を選んだ理由は、この先の時間の使い方と、自分の幅を広げたかったからです。広島大学経済学部を卒業し、株式会社良品計画に入社しました。店舗勤務を経験したのち、現在は商品開発部門に所属しております。実務に16年程従事し、会社内での役割や、業務の厚みも充実してきたタイミングで、次の5年、10年、20年先の自分を考えたときに、一度きりしかない人生でさらに自分の幅を広げ、新たなステップを踏み出したいと考え、進学に至りました。

HBSの魅力は、マーケティング分野で大変活躍されている教授陣が在籍しているだけでなく、講義形式が少人数であるためワークショップ形式で学べることです。他校と比較して授業料が格段に安いことも魅力のひとつです。

講義では、マーケティングの基本を体系的に学ぶことができ、さらに各企業の実務家からリアルな事例とともに、現場の貴重な生の話を聞くことができます。

このことは、異業種の方々のリアリティのあるケーススタディを聞くことができる貴重な機会となりました。

最大の特徴は、修士2年時に取り組む修士論文です。ゼミ内では自身が取り組む研究について、研究の方向づけから、実験方法、定量分析方法と論文執筆を大変きめ細かくご指導を頂けます。実務では経験のない論文執筆は、論理的思考の深耕と、研究課題に対する探究にもつながり、非常に貴重な経験となります。ゼミの教授だけでなく、同期やゼミの先輩方からの励ましや、アドバイス等もHBSならではの魅力だと思います。

私にとってこのようなHBSへの進学は、当初の目的通り、自分の幅を広げることができた非常に良い経験の場となり、2年間の修士課程を経験することで、さらに実務と理論の架橋の大切が分かりました。

一度しかない大切な時間をHBSで是非有意義に過ごしてみませんか？

アットホームな雰囲気とマンツーマンの研究指導体制



高橋美穂子 教授

HBSアカウントニング・ファイナンスコースの特徴は、多様な研究領域の教授陣が揃っている点です。「会計とファイナンス」という大きな枠組みのなかに、財務会計論、管理会計論、税務会計論、経営分析、基礎・実証ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、国際会計論、租税法といった多様な専門科目を幅広く設置しています。大学院での講義はアットホームな雰囲気のなかで進められ、質疑応答などが非常にきめ細やかに行われます。また講義では、理論的な説明のみならず、ワークショップなど他の企業の実務などに触れられる機会も提供しています。

2年次に行われる修士論文の指導では、それぞれの社会人院生が、自らの研究テーマに最も近い教員のもとでマンツーマンの指導により論文を執筆します。さらに、関連した研究領域の教員、また研究方法でアドバイスを与えることのできる教員が必要に応じて入れ替わり立ち替わりサポートを行います。

大学院での学習において社会人院生の方に期待したいのは、大学院で学習する理論と皆さんの実社会での経験を常に比較して考えていただきたいということです。会計やファイナンスの研究テーマは皆さんの日常業務の中に潜んでいることも多く、実務の現場を知っている社会人院生

は大きなアドバンテージを持っているはずで。

その一方で、社会人院生の方に学習を進める上で気をつけていただきたいこともあります。理論を学んでいる時に、自社の状況だけを考え、「実際の現場ではそのようなことはありえない」という考えを持ってしまうことです。理論は多くの企業の実務から共通部分を抽出し、またいくつかの基本的な仮定に基づいて組み立てられる性格を持っています。理論で示されていることと実務を常に比較して考えていくことで、理論のいっそう深い理解が可能となることもあります。また、理論と実務のギャップを認識することで、思わぬ発見があり、そこから新しい理論や実務のヒントが生まれる可能性もあります。そのような一連の過程を皆さんと一緒に経験しながら、現実にある様々な問題を深く掘り下げて考えていくことが、社会人大大学院での研究の醍醐味だと思っています。

皆さん、アカウントニング・ファイナンスコースと一緒に研究しましょう。



●教員紹介および担当科目 (2019年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
大下 勇二 教授	フランス会計制度研究、税務会計における会計基準の利用問題	2019年度は特定の科目を担当していません
神谷 健司 教授	中小企業の会計基準のあり方、会計教育プログラムの研究、学校法人会計基準の研究	2019年度は特定の科目を担当していません
川島 健司 教授	資産の時価測定に関する実証的研究、資産評価の会計基準分析、時価主義会計の学説研究	2019年度は特定の科目を担当していません
岸本 直樹 教授	オプション等のデリバティブの価格理論、資産の証券化に関する経済学的分析、住宅ローンの期限前償還	2019年度は特定の科目を担当していません
金 瑠晋 教授	企業の財務行動	実証ファイナンス入門、アカウントニング・ファイナンス演習
坂上 学 教授	XBRLと財務ディスクロージャー、財務数値の分布特性に関する研究、機械学習を応用した会計不正の発見	アカウントニング・ファイナンス演習
高橋 美穂子 教授	会計数値に基づく企業価値評価	2019年度は特定の科目を担当していません
筒井 知彦 教授	企業会計と利益計算	会計学基礎
福田 淳児 教授	MCSの設計と組織学習、スタートアップ企業におけるMCSの発展	管理会計論
福多 裕志 教授	日米企業の財務位相分析	経営分析
山崎 輝 教授	金融工学、数理ファイナンス	基礎ファイナンス
北田 皓嗣 准教授	CSRマネジメント	アカウントニング・ファイナンス演習

●MBA修了生・現役生の声

刺激的なHBS

教育の現場で充実した日々を送っていた私は、その一方で会計学を学びたいという思いを抱いていました。私が最も関心をもっているのは、地方自治体が行う会計、医療法人会計、学校法人会計等、いわゆる公会計といわれる分野です。公会計を理解するためには、まず企業会計の理解が必要不可欠であると考え、HBSへの入学を決意しました。

入学後は驚きと感動の連続でした。HBS教育には3本柱である、講義・ワークショップ・論文作成があります。講義は、院生による発表内容について理論とケースを交えながら受講者全員で討論することにより、問題解決能力を高めていくものでした。これはビジネススクールの核心部分であり、刺激的なものでした。また、「政策法務論」・「地方財政学」等、私が興味を持っている講義を研究科・専攻・コースを越えて履修が可能であることも大きな魅力でした。ワークショップでは、第一線で活躍されているゲストスピーカーによる講義と、そ

高江洲 司さん (2014年3月修了)
学校教員



の講義後のディスカッションがありました。ゲストが大学教員の場合、高度な会計理論の講義があり、会計学の学問としての深さに感心しました。またゲストが実務家の場合、企業経営の真髄に迫る内容の時には感動さえありました。

HBSは修了要件として修士論文を要求しています。ビジネスの場で活躍されている人にとって自分の考えを深く検討し、さらに論文としてまとめる機会は皆無に等しいと思います。自ら問題点を発見し、その問題に対する解決方法を深く追求し、最終的に論文という形で表現するということは、アカデミズムの世界に触れる最良の機会であり、最も意味があることと思われま。

仕事の後、疲れきった状態で講義に出席したことも度々ありました。しかし、HBSは刺激的で最高の環境を提供してくれます。私は先生方や院生達と共に充実した素晴らしい時間を過ごせたことに感謝しています。

法政ビジネススクール コース共通科目

各コースが提供する高度な専門教育の理解と実践への応用のためには、ビジネス全般に関する基礎を理解することも重要です。そこで、法政ビジネススクールでは、「コース共通科目」として、経営学、

会計学、経済学、統計学、情報科学に関する基礎科目や、産業、日本経済等に関する科目を設置しています。

●教員紹介および担当科目 (2019年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
福島 英史 教授	企業戦略と技術革新に関する研究	経営学基礎
筒井 知彦 教授	企業会計と利益計算	会計学基礎
児玉 靖司 教授	ディープラーニングを利用した学習解析	情報学特論
入戸野 健 教授	テキストマイニングと集合知	2019年度は特定の科目を担当していません
高橋 慎 准教授	金融時系列データの統計分析	統計データ解析
平田 英明 教授	日本の景気動向、日本の金融システム、期待形成と経済政策	2019年度は特定の科目を担当していません
宮澤信二郎 教授	企業の資金調達と競争に関する戦略の相互作用について	2019年度は特定の科目を担当していません

法政大学大学院経営学研究科経営学専攻について

経営学研究科
経営学専攻

- 昼間コース
 - 修士課程 (授与学位: 修士(経営学))
 - 博士後期課程 (授与学位: 博士(経営学))
- 夜間コース
 - 修士課程 (授与学位: 修士(経営学))
 - 博士後期課程 (授与学位: 博士(経営学))

<昼間コースのご紹介>

経営学専攻には、法政ビジネススクール(夜間コース)のほか、研究者養成を主な目的とした昼間コースもあります。昼間コースについて詳しくは、『法政大学大学院入学案内2020』の紹介(経営学専攻のページ)や、法政大学大学院経営学研究科のホームページ(<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/keiei/>)をご覧ください。

法政ビジネススクール

<博士後期課程夜間コースのご紹介>

法政ビジネススクール(経営学専攻夜間コース)には、MBA(経営学修士号)を取得できる修士課程のほか、同じく働きながら博士の学位を取得することが可能な「博士後期課程夜間コース」があります。博士後期課程では、博士論文の提出に向けて段階を踏んで進んでいくステップ制を取り入れ、指導教員・副指導教員による個別指導と経営学専攻としての教育・学習とを組み合わせ、博士学位取得をサポートしています。

学費(年額)のご案内	修士課程	入学金 200,000 円 (入学時のみ)	授業料 570,000 円	教育充実費 80,000 円
*本学出身者は入学金が免除となります。	博士後期課程	入学金 200,000 円 (入学時のみ)	授業料 400,000 円	教育充実費 60,000 円

修士課程(夜間)は、「教育訓練給付制度一般教育訓練講座」の指定を受けています。この制度は、修了後本人がハローワークへ申請することで、教育訓練経費(入学金と初年度授業料)の20%(上限額10万円)の教育訓練給付金が支給されるものです。

■法政大学大学院へのアクセス

- 東京メトロ有楽町線・南北線
市ヶ谷駅下車徒歩2分
- JR線、都営新宿線・大江戸線、東京メトロ東西線
市ヶ谷または飯田橋駅下車徒歩10分



■法政ビジネススクールについてのお問い合わせは

法政大学大学院事務部(法政大学大学院棟1階)

〒162-0843 東京都新宿区市ヶ谷町2-15-2 TEL.03-5228-0551~0552 FAX.03-5228-0555 E-mail: i.hgs@ml.hosei.ac.jp

法政ビジネススクールホームページ <http://hbs.ws.hosei.ac.jp>